

人口対策庁内検討会議 御意見集約結果【御意見・御提案について】

No.	委員名	該当箇所	御意見・御提案等の概要	事務局回答
1	藤井委員（小樽市総連合町会）	資料3	<p>ひと旗事業の進め方について</p> <p>○ステップ1：徹底的なリサーチ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・移住してきた既存の事業者に、小樽の何が魅力で、また何が不足かなどを徹底的にリサーチする。 ・起業・移住してもらうためには何が必要か、何が足りないのかを調べる。 ・主にスモールビジネスを主眼とするらしいが、同様の施策を実施している他市の移住策を徹底的に調べて、効果が出ているか検証する（できれば海外の都市も含めて）。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の感染拡大により開催できできておりませんが、移住者ミーティングでのリサーチや、今年度開催したオンライン移住体験ツアーでは市内で起業した移住者に参加していただき、体験談などをリサーチしています。 ・これまでも他市町村の事例を調べてきましたが、各市町村ごとに、地理的な特性、歴史的な背景、地場産業の有無等、まちの性質が全く異なります。他市町村の事例が本市に当てはまるとは限らないため、「小樽の特色を生かした」施策を実施しようと考えております。
2	藤井委員（小樽市総連合町会）	資料3	<p>○ステップ2：PDCA</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リサーチを基に、（試行的な）取組を企画・立案と事業費の計上。 ・上記の事業結果を検証し、本格的な事業を企画する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの少子化対策や子育て施策の充実などでは、他市町村と大きな差別化を図ることが難しいことから、小樽の魅力や歴史に訴求したスローガンを掲げ、ターゲットを絞った移住の促進や本市のイメージアップを図るものです。
3	藤井委員（小樽市総連合町会）	資料3	<p>○ステップ3：本腰で取り組む体制、制度の構築（整備）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・起業・移住事業促進のための体制づくりを行う。（専任職員の配置、やる気スイッチが入る助成制度、シームレスな支援体制） ・ネットメディアを通して大々的な広報を行い、応募者を募る。 ・事業の選定→実施→検証→事業のバージョンアップ 	<ul style="list-style-type: none"> ・本市への移住を検討している方を支援するため、新たに移住コーディネーターを配置したサポートセンターを開設し、体制の強化を図ることとしています。 ・ひと旗プロジェクトの事業として、ホームページやSNSを活用した効果的な情報発信を行います。 ・PDCAサイクルについては令和3年度に行政評価が実施されたところです。
4	藤井委員（小樽市総連合町会）	資料3	<p>※フェーズ0：庁内組織をつくらない。</p> <p>理由～過去に幾度も若手職員を中心とした横断的な庁内組織を結成し、実施（案）を作成した経緯はあるが、いつのまにか立ち消え。組織をつくるなら、その組織が企画・立案・実行・検証までする構造でないと、言い放しで終わってしまう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・職員が有機的につながり分野横断的に施策を検討することは必要と考えています。 ・今回のプロジェクトでは、ホームページなどを活用し事業のパッケージ化を行い、効果的な情報発信を行うためチームを設置することとしています。 ・このホームページを活動の場所として、情報発信内容の企画、立案、実行、検証をこのチームで行うこととなります。

人口対策庁内検討会議 御意見集約結果【御意見・御提案について】

No.	委員名	該当箇所	御意見・御提案等の概要	事務局回答
5	藤井委員（小樽市総連合町会）	その他	・人口減少に伴い世帯数も減少し、町会組織も役員の高齢化や担い手不足で、維持することが難しくなっています。10年後、20年後の町会はどうなっているのか展望するためにも、データ収集と分析をお願いいたします。	・国立社会保障・人口問題研究所の人口推計に基づき、小樽市独自のシミュレーションを出しておりますが（小樽市人口ビジョン：令和2年改訂版）、引き続きデータ収集と分析を進めて参ります。
6	藤井委員（小樽市総連合町会）	その他	・令和4年度予算に計上予定の人口対策事業（新規・拡充）について、その目的、期待する効果などの概要や予算額をお知らせください。	・本市ホームページに令和4年度主要事業について掲載していますのでリンク付します。直接的な人口対策事業は6ページの「移住促進の取組」に掲載しています（別添1）。 https://www.city.otaru.lg.jp/docs/2021102100052/file_contents/03_R04_syuyo_jigyoo.pdf
7	竹田委員（小樽公共職業安定所）	その他	・資料に関する意見等は特にありませんが、小樽市に定住していただける方を増やすには、そのメリットを広く伝える必要があると思います。	・移住に特化した新たなホームページを立ち上げ、効果的な情報発信に努めます。
8	杉山委員（子育て支援サークルホワイトウイング）	資料2-2 8ページ	・問13-3に「小樽に住んで東京の会社に勤めている・・・」というコメントがあった。起業とはまた違う、コロナ禍・コロナ後のこうした働き方に人を呼び込むヒントがありそうな気がする。	・テレワーク移住については、UIターン移住支援金の対象に令和3年度から拡充され、実際に市内に移住された方もいらっしゃいます。 ・テレワークモニター事業や、観光部門で実施しているワーケーションモニター事業とも連携してPRに努めていきます。
9	杉山委員（子育て支援サークルホワイトウイング）	資料2-3 10ページ	・問14-4「将来、小樽に戻って就職したいですか」ところに「起業したいか」という設問もあると良かった。「ひと旗プロジェクト」に少しはつながるデータになったのではないか。	・今後アンケート実施の際には参考にさせていただきます。
10	杉山委員（子育て支援サークルホワイトウイング）	資料3 1ページ	・最初の四角囲み内の2、3行目の文章は、少子化対策や子育て家庭向けの施策はお金がかかりすぎてリターンが少ない・・・と読めてしまう。資料1-3「(2)政策に要した経費」の子ども・子育て分野に要した経費のパーセンテージと合わせてみると、子育て支援への市の本気度の低さが透けてしまう気がする（資料1-3の数字のとらえ方が間違っていたらすみません）。 「移住」の先に「定住」があり、そしてさらに「家族の構成」があるとしたら、長い時間・年月をかけての公的な子育て支援は、単純な費用対効果で語れないと思う。	・今後も少子化対策や子育て施策の充実には引き続き取り組んでいきますが、そうした施策の充実だけでは他市町村と大きな差別化を図ることが難しいことから、小樽の魅力や歴史に訴求したスローガンを掲げ、ターゲットを絞った移住の促進や本市のイメージアップを図るものです。

人口対策庁内検討会議 御意見集約結果【御意見・御提案について】

No.	委員名	該当箇所	御意見・御提案等の概要	事務局回答
11	杉山委員（子育て支援サークルホワイトウイング）	資料3 1ページ	三つ目の四角囲み内、「視点①小樽にうつり・・・」に対応する言葉として「視点②小樽にのこり・・・」というフレーズが使われていると思うが、「のこり」に何かネガティブな響きを感じてしまう。	・「のこり」にネガティブな響きを感じてはいませんでした。アンケートでも「小樽に住み続けたいが仕事が無いので転出せざるを得なかった」等のコメントが若い世代にも多かったため、小樽に残りたい人が残れるように、という思いで表現しています。
12	藤平委員（小樽市退職校長会）	その他	小樽市の現状・対策・将来の方向性について、市民と共有し、官民一体となった具体的な道しるべが現状を変えていく推進力となります。 小樽市の現状を維持し、さらなる向上に向けて、市民への啓発を促す取組を強めることが大事と実態調査などから痛感しました。 子ども達が働きたいと思う街づくりを基本に、小樽市の歴史を基礎にした学校教育の推進が必要と考えます。	・学校教育での小樽市の歴史の活用につきましては、今後の参考とさせていただきます。
13	鈴木委員（北海道新聞社小樽支社）	資料1-1 1-2 1-3	・人口対策は、全市共通の総合的な政策とは別に、エリアごとの特性に合わせた個別政策こそが重要であり、効果的だと考えます。総合戦略における「地区別発展方向」を早急に肉付けし、そここそKPIを設定してほしいと思います。	・今後どのような都市構造を目指すのか、立地適正化計画策定の中でまちづくりの目標や方針を定めることとしていることから、地区別発展方向にKPIを設定することは考えていません。
14	鈴木委員（北海道新聞社小樽支社）	資料2-1 2-2 2-3	・移動実態調査で「小樽が住みにくいとのおもったこと」の質問に対し、転入者、転出者とも「鉄道交通が不便」「除排雪が行き届いていない」「バス交通が不便」の3大交通問題が事実上の上位3位を占めています。これは、小樽の人口対策において、交通問題こそがボトルネックになっていることを示していると思います。	・今回のアンケート調査については、単純集計の結果のみとなっています。「住んでよかった点」、「住みにくかった点」の双方に交通問題があることから今後クロス集計など分析を行いたいと考えています。
15	鈴木委員（北海道新聞社小樽支社）	資料2-1 2-2 2-3	・若い世代の転入を促すためにはマイカー利用者の利便性向上に着目して、必要な施策を講じるのが効果的ではないでしょうか。具体的には小樽、南小樽、小樽築港、銭函、ほしみの各駅周辺に駐車場を整備し、通勤定期利用者に民間駐車場の割引利用クーポンを配るなどして、札幌方面へ通勤する市民に無料もしくは安い駐車料金で提供する「パークアンドライド（P&R）方式」を導入してはどうでしょうか。	・駅周辺に民間駐車場があるため、市が直接、駐車場事業を行い、無料若しくは安価で提供することは難しいと考えますが、公共交通や脱炭素の施策とも関連することから、いただいたご意見は今後の参考とさせていただきます。

人口対策庁内検討会議 御意見集約結果【御意見・御提案について】

No.	委員名	該当箇所	御意見・御提案等の概要	事務局回答
16	鈴木委員（北海道新聞社小樽支社）	資料2-1 2-2 2-3	・さらに駅からやや離れた住宅地が増加している空き家住宅に、札幌圏の子育て世代を誘導する施策を考えてはどうでしょうか？小樽駅や南小樽駅、小樽築港駅などの周辺マンションは需要が高く、家賃も高くなっています。一方、郊外の一戸建て住宅は空き家が増え、家賃も低いため札幌市清田・厚別区、北広島市、江別市などの住宅地と比べても競争力は高いと考えられます。上記の「P&R」方式の補助制度と組み合わせて誘致を図れば、勝機は十分にあるのではないのでしょうか。	・市が直接、駐車場事業を行い、無料若しくは安価で提供することは難しいと考えますが、公共交通や脱炭素の施策とも関連することから、いただいたご意見は今後の参考とさせていただきます。
17	鈴木委員（北海道新聞社小樽支社）	資料2-1 2-2 2-3	・地区別では東西部地区のほしみ駅、銭函駅周辺への通勤サラリーマン層の誘致が、大きな切り札となります。工業用地の住宅地への用途変更、建築に関する規制緩和は一朝一夕にできないことは理解しているが、できるだけ早く検討を進めてほしいと思います。	・今後策定する立地適正化計画との整合性を図りながら、変更の必要性を検討したいと考えています。
18	鈴木委員（北海道新聞社小樽支社）	資料3	・中部地区では小樽築港駅や小樽駅周辺の駐車場整備が効果的だと考えられます。北西部地区は今後、過疎化が加速し、北西部地区の人口の伸びを打ち消してしまう懸念があります。JR余市～小樽間のバス転換で、さらに拍車がかかる懸念もあります。この地域の住民が札幌まで最短時間で移動できる小樽駅周辺の「P&R」整備を、小樽駅前再開発事業と併せて検討してはどうでしょうか？	・市が直接、駐車場事業を行い、無料若しくは安価で提供することは難しいと考えますが、公共交通や脱炭素の施策とも関連することから、いただいたご意見は今後の参考とさせていただきます。
19	鈴木委員（北海道新聞社小樽支社）	資料3	・人口対策を「起業家支援」に絞るのは、やや短絡的ではないのでしょうか。というか、これって人口対策ですか。いわゆる産業振興策を人口対策に位置づけていること自体、何かボタンの掛け違えを続けているのではないかと危惧します。既存事業として10個ほどの事業を羅列しているが、これで何人の人口を増やせるのでしょうか。市内GDPを引き上げる産業振興策としての効果は認めますが、人口対策としての効果はさほど高くないのではないのでしょうか。	・今後も少子化対策や子育て施策の充実には引き続き取り組んでいきますが、そうした施策の充実だけでは他市町村と大きな差別化を図ることが難しいことから、小樽の魅力や歴史に訴求したスローガンを掲げ、ターゲットを絞った移住の促進や本市のイメージアップを図るものです。
20	島尻委員（北海道財務局小樽出張所）		・転入者及び転出者からのコメントでは、小樽の自然や景観を称えるなど観光地としての小樽を評価するコメントが多く、生活環境面では様々なニーズが寄せられているように思われます。 ・アンケートにあったニーズすべてに対応することは困難であると考えますので、移住・定住の促進のため現在取り組んでいる施策の着実な実行を期待しております。	・今回のアンケート結果も参考に、引き続き、移住定住の促進や人口減少対策に取り組んでまいります。

人口対策庁内検討会議 御意見集約結果【御意見・御提案について】

No.	委員名	該当箇所	御意見・御提案等の概要	事務局回答
21	島尻委員（北海道財務局小樽出張所）		<p>・札幌のベッドタウンとして人口が増加若しくはスクエアな周辺団体がありますが、そのような団体と比べても立地的には小樽市は引けを取らないほか、独自性の高い魅力を備える街であると考えます。</p> <p>・小樽市内の雇用拡大等をしていくことは重要ですが短期的に効果を望むことが難しいものと考えますので、雇用拡大等の取組とともに、札幌のベッドタウンとして他地域に比べ優位な点の確立及びPRを行っていくことが望ましいと考えます。</p>	<p>・ひと旗プロジェクトの事業として、移住に特化した新たなホームページやSNSを活用した効果的な情報発信を行うこととしています。その中で、小樽での暮らしをピックアップしてPRしたいと考えています。</p>